

自治基本条例（仮称）アンケート結果

1 あなた自身についておたずねします。

(1) アンケート配布数（無作為抽出 2,000 人）及び回収率 （集計表 P1）

	豊科	穂高	三郷	堀金	明科	未記入	計
配布数	565	694	377	182	182		2000
回収数	245	288	149	63	78	1	824
回収率	43.4%	41.5%	39.5%	34.6%	42.9%		41.2%

- ・アンケートは無作為抽出により 2000 人対象で実施した。男女 1000 人ずつ、地域及び年齢はそれぞれ人口比とした。
- ・回収率は 41.2%（824 人）で、男女別では女性が 42.2%、男性が 39.8%で女性が男性を若干上回った。また、地域別では豊科地域が 43.4%、次いで明科地域 42.9%、穂高地域 41.5%、三郷地域 39.5%で、堀金地域は他地域と比べ低い 34.6%であった。年齢別では、60 歳代が 55.2%、70 歳代以上が 48.2%、50 歳代が 45.6%と高く、次いで 40 歳代が 32.3%、若年層の 30 歳代が 28.2%、18 歳から 30 歳未満が 25.2%と低い結果となった。
- 全体の回収率は 40%を超えたことから、郵送における回収ではまずまずの結果であった。
- 回収率は地域別では堀金地域が他地域に比べかなり低く、条例への関心が低い結果となった。性別では、ほぼ同数であった。年齢別では、50 歳代以上の関心が高く、反面若年層の関心の低さが結果として現れた。

(2) 職業 （集計表 P2）

- ・職業は無職が 35%、会社員 27%、次いでパート・アルバイト 14%、自営業 13%、学生・主婦が 7%であった。

2 安曇野市についておたずねします。

(5) あなたにとって安曇野市の「良い点」、「改善すべき点」は何ですか。 （集計表 P2～13）

【豊かな自然環境】

（資料 P2,P7）

- ・性別、地域別、年齢別にかかわらず概ね 8 割以上の方が、「豊かな自然環境」が市の良い点と回答している。
- ・一方、改善すべき点で「自然環境」と答えた方は 3.8%と低くなっているが、その中でも 40 歳代が 8.0%であった。

【コミュニティ（区・隣組）】

（資料 P2,P7）

- ・全市的には「良い点」（18.0%）が「改善すべき点」（15.4%）を上回った。
- ・地域別では豊科地域の「良い点」が 24.1%と他地域に比べ高く、明科地域も 20.5%と 2 割を超えており、区への関心の高さが見受けられた。一方「改善すべき点」と答えた方は、堀金地域が 20.6%、穂高地域が 19.4%、三郷地域が 18.1%と高い数字となっており、この 3 地域は「良い点」を上回った。
- ・年齢別では 70 歳以上の方の 23%弱が「良い点」を選び、「改善すべき点」は半分の 12%弱であったが、50 歳代はその反対で「良い点」が 12%弱で、「改善すべき点」が 23%弱の半数となった。「良い点」が「改善すべき点」を上回ったのが、18 歳から 30 歳未満、40 歳代、60 歳代以上となった。

- 地域別では総体的に区加入率との関連が見られる。

【防犯・防災】

（資料 P2,P7）

- ・「改善すべき点」が「良い点」を上回ったがほとんど同数であった。
- ・地域別では明科地域が「良い点」が 3.8%と極めて低くなっている。堀金地域が「良い点」と「完全すべき点」が同数であり、その他の地域はすべて「改善すべき点」が上回り、豊科地域では「改善すべき点」が 12.2%と「良い点」を 3.2%上回った。

- ・年齢別では「良い点」で30歳代が2.8%、40歳代が5.3%と低く、18歳以上30歳未満と70歳以上が「良い点」が「改善すべき点」を上回った。30歳代は「改善すべき点」が16.9%と「良い点」を14.1%上回り、また40歳代も7.1%同様に上回った。

【公共交通の利便性】

(資料 P3,P8)

- ・「改善すべき点」(35.2%)が「良い点」(9.2%)を大きく上回った。
- ・地域別に見ると、すべての地域で「改善すべき点」が「良い点」を上回ったが、豊科地域が「良い点」で15.1%と他地域に比較して高く、「改善すべき点」も30.6%ともっとも低かった。「改善すべき点」では堀金地域が42.9%ともっとも高く、「良い点」との差が36.6%であった。その他の地域も「改善すべき点」が30%台で「良い点」との差が30%前後となっている。
- ・年齢別ではいずれも「改善すべき点」が「良い点」を大幅に上回ったが、70歳以上ではその差が15%と、他の年齢層の20%~40%の差と比較して小さかった。

○特にデマンド交通に対して、不満があると思われる結果となったが、拠点のある豊科地域がその中でも良いと考える方が多く、また70歳以上も不満がある結果ではあるが、利用者からは良いと考えられている。

【子育て支援】

(資料 P3,P8)

- ・「良い点」と答えた方が6.1%で「改善すべき点」と答えた方が15.0%となった。
- ・地域別では全地域「改善すべき点」が「良い点」を7%から13%ほど上回った。明科地域が「良い点」で3.8%と最も低かったが、「改善すべき点」でも11.5%と最も低かった。
- ・年齢別ではすべての年齢層で「良い点」を「改善すべき点」が上回ったが、特に18歳から40歳代の子育て世代では、18歳から30歳未満が12.8%、30歳代が14.1%、40歳代が12.4%と大きく「改善すべき点」が「良い点」を上回った。
- ・性別では、「良い点」と答えた女性が8.3%、男性が3.8%と少数の中でも差が出ている。「改善すべき点」では大きな差はなかった。

【福祉サービス】

(資料 P3,P9)

- ・「改善すべき点」(20.8%)が「良い点」(13.2%)を上回った。
- ・地域別では明科地域のみ「良い点」が5.1%「改善すべき点」を上回った。豊科地域と穂高地域は「改善すべき点」が「良い点」のほぼ倍となった。
- ・年齢別では40歳代と60歳代が「改善すべき点」(23.0%、27.4%)が「良い点」(6.2%、12.7%)とそれぞれ16.8%、14.7%と大きく上回ったが、唯一「良い点」が上回ったのが70歳以上であった。
- ・性別では「良い点」で男性が10.3%に対し女性が15.6%と1.5倍であり、「改善すべき点」でも男性が18.8%、女性が22.3%と女性が高い数値となった。

【学校教育】

(資料 P4,P9)

- ・「良い点」と答えた方が6.4%、「改善すべき点」と答えた方が8.5%と「改善すべき点」が上回った。
- ・地域別には三郷地域と堀金地域が「良い点」が「改善すべき点」と同数または上回った。豊科地域が4.5%、穂高地域が2.0%、明科地域が1.3%それぞれ「改善すべき点」が上回った。
- ・年齢別では子育て世代の30歳代が「良い点」(2.8%)、「改善すべき点」(15.5%)、40歳代が「良い点」(13.3%)、「改善すべき点」(23.0%)と大きく「改善すべき点」が占めている。
- ・性別にみると、「良い点」ではほぼ同数で、「改善すべき点」では2%女性が男性を上回った。

【スポーツ振興】

(資料 P4,P9)

- ・「改善すべき点」が「良い点」を若干上回った。
- ・地域別では堀金地域が「良い点」が9.5%で「改善すべき点」を4.7%上回り、三郷地域と明科地域も若干上回った。豊科地域と穂高地域は「改善すべき点」が「良い点」を上回った。
- ・年齢別では子育て世代やスポーツ実践世代の30歳代から40歳代が大きく「改善すべき点」が「良い点」を上回っている。特に30歳代では16.9%も上回った。一方で、軽スポーツ世代の60歳代、70歳代以上では「良い点」が上回った。
- ・性別で見ると、「良い点」では男性が5.5%で女性の4.7%を若干上回り、「改善すべき点」では男性が9.3%で女性を5.3%も上回った。

○スポーツクラブのある堀金地域がスポーツに関心があり、「良い点」と感じている方が多い。

【生涯学習】

(資料 P4,P10)

- ・「改善すべき点」(6.1%)が「良い点」(3.5%)を上回った。
- ・地域別では全地域「改善すべき点」が「良い点」を数%上回った。明科地域では「良い点」と答えた方は一人もいなかった。
- ・年齢別では子育て世代の30歳代が若干(1.4%)「良い点」が「改善すべき点」を上回ったが、その他の年齢層では「改善すべき点」が上回った。特に18歳から30歳未満では「良い点」が1.8%ともっとも低く、「改善すべき点」が8.8%ともっとも高い結果となった。
- ・性別では女性が4.5%と男性より2.0%高く、「改善すべき点」では男性が7.5%で女性を3.0%上回った。

【雇用】

(資料 P4,P10)

- ・「改善すべき点」は19.8%と5人に一人が雇用について課題と考えている一方、「良い点」と答えた方が1.0%と少数であった。
- ・地域別ではどの地域も大きく「改善すべき点」が上回っているが、特に豊科地域は24.1%が「改善すべき点」と答えている。「良い点」は明科地域の2.6%がもっとも高く、三郷地域と堀金地域は「良い点」と答えた方が一人もいなかった。
- ・年齢別でも「改善すべき点」と答えた方が一方的に多く、特に30歳代では31.4%が「改善すべき点」と答えた。「良い点」では18歳から30歳未満の1.8%がもっとも高く、「改善すべき点」では70歳代以上の10.8%がもっとも低く、30歳代を除くその他の世代は20%前後であった。
- ・性別では「良い点」も「改善すべき点」もほぼ同じであった。

○特に就職に就く年代の18歳から30歳代の雇用への不満が見受けられる。働き盛りの50歳代まで雇用への不安を持っている。

【産業振興】

(資料 P5,P11)

- ・「改善すべき点」と答えた方(15.5%)が大きく「良い点」(2.5%)を上回った。
- ・地域別では、明科地域が「改善すべき点」が21.8%ともっとも高く、「良い点」が1.3%ともっとも低かった。すべての地域で「改善すべき点」が「良い点」を最低でも10%前後上回っている。
- ・年齢別でもすべての世代で「改善すべき点」が大きく「良い点」を上回った。特に50歳代は25.4%が「改善すべき点」と答え、「良い点」の5倍以上であった。。
- ・性別では「改善すべき点」で、女性が10.4%に対し男性が20.9%と倍となっている。

【協働のまちづくり】

(資料 P5,P11)

- ・「改善すべき点」(6.8%)が若干「良い点」(4.0%)を上回ったが、全体的に協働に対する関心がまだ低い。
- ・地域別では豊科地域と明科地域が「改善すべき点」を「良い点」が若干(0.4%、1.3%)上回り、その他の地域は「改善すべき点」が「良い点」を上回った。特に穂高地域では「良い点」が2.1%で「改善すべき点」が8.3%と6.2%の差があり、堀金地域でも「良い点」が3.2%で「改善すべき点」がもっとも高い9.5%と6.3%の差があった。
- ・年齢層ではすべての世代で「改善すべき点」が「良い点」を上回っているが、特に60歳代で大きな差(6.0%)となった。
- ・性別にみると、「良い点」では男性が5.8%、女性が2.4%と男性が女性の倍であり、「改善すべき点」では女性が7.1%で男性より0.8%高かった。

○協働について地域別に見ると「コミュニティ(区・隣組)」と近く、関連性があると思われる。

【健全な行財政運営】

(資料 P5,P12)

- ・「良い点」が2.3%で「改善すべき点」が15.4%であった。
- ・地域別ではすべての地域で10%以上が「改善すべき点」であり、三郷地域は21.5%であった。「良い点」が一番高くても堀金地域の4.8%であった。
- ・どの年齢層でも「良い点」は低く70歳代以上の4.4%が最高で、「改善すべき点」では18歳から30歳未満が5.3%と低いが、その他の世代はすべて12%以上で50歳代は20.1%と高くなっている。
- ・性別にみると、「良い点」では男性の3.3%に対し女性は1.4%と低く「改善すべき点」も男性が17.8%で女性を4.5%上回った。

【議会】

(資料 P6,P12)

- ・「改善すべき点」が8.9%で「良い点」が1.1%であった。
- ・地域別では明科地域が「良い点」が一人もなく、「改善すべき点」が2.6%とどちらも低い数値となっている。他の地域は「改善すべき点」が10%前後で「良い点」が3.2%以下となっている。
- ・年齢別では18歳から40歳代の若年層が「良い点」が一人もなかった。「改善すべき点」は30歳代以上で10%前後、18歳から30歳未満で3.5%であった。
- ・性別では「良い点」では男性が1.5%、女性が半数の0.7%、また「改善すべき点」と答えた割合は男性12.6%、女性5.5%と開きがあった。

○議会に対する関心が若年層で低く、また女性は男性に比べ低いと考えられる。

【生活環境】

(資料 P6,P12)

- ・「良い点」が24.6%、「改善すべき点」が9.6%であった。
- ・地域別では「良い点」で明科地域が16.7%であったが他の地域は20%台となっている。「改善すべき点」で堀金地域が4.8%でその他の地域が10%前後となっている。
- ・年齢別では、「良い点」で18歳から30歳代、50歳代が30%台、その他の年齢層で20%台、また「改善すべき点」

で

は70歳代以上の7.2%から60歳代の11.2%の間であった。

○自然環境と生活環境は良いと考える方が比較的多い。

【インフラ整備】

(資料 P6,P13)

- ・「良い点」が4.2%、「改善すべき点」が13.1%であった。
- ・地域別に見ると「良い点」ではすべての地域が4~5%前後と地域差はほとんどなく、「改善すべき点」は堀金地域が

6.3%と低かったが、他の地域は11%台から16%の間となっている。

- ・年齢別で見るとすべての世代で「改善すべき点」が「良い点」を上回っているが、18歳から30歳未満と70歳代以上はその差が少なく、その他の世代は10%以上差がある。
- ・性別では「良い点」ではほぼ同じ率であるが「改善すべき点」では男性が17.6%に比べ女性が9.0%と開いている。

(6) あなたは、今後も安曇野市に住み続けたいと思いますか。(集計表 P14~P16)

	永住したい	当分住み続けたい	いずれ転出したい	すぐにも転出したい
市全体	489	228	37	7
豊科	147	68	9	2
穂高	163	83	14	2
三郷	94	39	5	1
堀金	34	20	6	1
明科	51	17	3	1

- ・永住したいが64% (489人)、当分住み続けたいが30% (228人) で94% (717人)の方が住み続けたいと回答した。
 - ・すぐにでも転出したいが1% (7人)、いずれ転出したいが5% (37人) で合わせて6% (44人)が転出したいと考えている。
 - ・地域別に見ると「永住したい」では明科地域の71%、三郷地域68%、豊科地域65%、穂高地域62%で、堀金地域は若干低めの56%であった。「永住したい」と「当分住み続けたい」を合わせると、三郷地域が96%、豊科地域、明科地域が95%、穂高地域が94%、やはり堀金地域が89%と若干低くなっている。
 - ・性別では「永住したい」と「当分住み続けたい」がほとんど同じ率となり、「すぐにでも転出したい」と「いずれ転出したい」では男性が3.8%で女性が6.6%と差があった。
- ほとんどの方がいろんな不満を持っていながらも安曇野市に住み続けたいと考えている。

3 市政についておたずねします。

(7) あなたは市政に関心がありますか。(集計表 P17~P20)

- ・市政への関心は「大いにある」が16%、「どちらかといえばある」が44%で合わせると6割の方が関心があると答えている。一方「まったくない」が4%、「どちらかといえばない」が12%と16%が関心がないと答えている。
- ・地域別では「大いにある」と「どちらかといえばある」が堀金地域で66%、豊科地域で64%、明科地域で62%、三郷地域で60%、穂高地域で56%となっている。
- ・年齢別では「大いにある」と「どちらかといえばある」が18歳から30歳未満で33.3%ともっとも低く、次いで30歳代で35.2%、40歳代で48.7%、50歳代で57.5%、60歳代で67.5%、70歳代以上で72.5%と年齢が高くなるにつれ関心が高く、70歳代以上と30歳未満では40%近くの違いがあった。一方「まったくない」と「どちらかといえばない」では、18歳から30歳未満で36.8%、30歳代で28.2%、40歳代で17.7%、50歳代で14.9%、60歳代で10.2%、70歳代以上で9.6%と年齢が高くなるにつれて関心が低くなっていく。
- ・性別では「大いにある」と「どちらかといえばある」で男性が68.3%で女性が51.4%と男性の方が関心があるとの結果となった。

(8) あなたは安曇野市の施策や事業に市民の考えが反映されていると思いますか。(集計表 P20~P23)

- ・市民の考えが市の施策等に「十分反映されていると思う」が1%と低く、また「どちらかという反映されている」が21%で合わせて22%であり、一方「まったく反映されていない」が4%、「どちらかという反映されていない」

が23%で合わせて27%であり、市民の声が市政にあまり反映されていないという結果になった。また、「どちらともいえない」が36%、「わからない」が15%と、市民の考えが市政に活かされているのかわからない方が半数いた。

- ・地域別に見ると、「十分反映されていると思う」と「どちらかというと反映されている」では、豊科地域で29%と他地域に比べ特に高く、次いで穂高地域と堀金地域が21%、三郷地域15%、また明科地域は20%でしたが「十分反映されていると思う」と答えた方は一人もいなかった。
- ・性別で見ると、「十分反映されていると思う」と「どちらかというと反映されている」で男性が25.9%、女性が17.3%と開きがありました。

(9) あなたは安曇野市の情報提供に満足していますか。 (集計表 P24~P27)

- ・市全体で見ると、市の情報提供に対して「満足している」が7%、「どちらかという満足している」が33%と合わせて40%の方が満足していると答えている。一方、「満足していない」が8%、「どちらかという満足していない」が12%と合わせて20%が満足していないという結果になった。
- ・地域別に見ると、「満足している」と「どちらかという満足している」では、明科地域が最も高く45%、次いで豊科地域が44%、穂高地域が39%、三郷地域が38%であり、また堀金地域は29%と大きく地域差が表れた。したがって、「満足していない」と「どちらかという満足していない」では、堀金地域が35%と唯一「満足していない」が「満足している」を上回った。その他の地域では明科地域の15%から三郷地域の22%までの間となりました。
- ・年齢別に見ると「満足している」と「どちらかという満足している」では、70歳代以上が48.2%と高く、18歳から30歳未満が24.6%と低い結果となりました。一方、「満足していない」と「どちらかという満足していない」では、40歳代が29.2%と一番高く、また18歳から30歳未満が10.5%とこちらでも一番低い結果であった。18歳から30歳未満では、「どちらでもない」が36.8%、「わからない」が28.1%とどちらも一番高く、特に「わからない」では他の年齢層が4~8%台であり突出している。

○以前から堀金地域では公民館から年間行事スケジュールが配られていたが、近年廃止となり、満足しない要因の一つと考えられるか。

(10) あなたは今までに、市政に対して意見を出したり、行政活動に参加したことはありますか。

(集計表 P27~P28)

- ・「市政に対して意見を出したり行政活動に参加したことがある」が21%と5人に一人という割合でした。一方、「ない」と答えた方が79%と高い結果となりました。
- ・地域別では、「市政に対して意見を出したり行政活動に参加したことがある」が三郷地域と明科地域が16%と低く、堀金地域が28.0%、豊科地域が23%、穂高地域が22%となりました。
- ・性別では、「市政に対して意見を出したり行政活動に参加したことがある」で男性が28.6%、女性が13.3%という結果で、女性の9割近い方が活動に参加していないという結果となった。

(11) (前(10)で「市政に対して意見を出したり行政活動に参加したことがある」と答えた方へ、どのような参加をされましたか。 (集計表 P28~P29)

- ・「審議会や委員会、市民ワークショップなど委員として参加した」が27.6%、「市の説明会や懇談会などに参加した」が64.1%と高く、「市政への意見や提言をした」が19.4%という結果となった。
- ・高い結果となった「市の説明会や懇談会などに参加した」では、明科地域が75.0%と最も高く、豊科地域も74.5%、穂高地域が60.3%、三郷地域が56.5%、また堀金地域が47.1%と地域差があった。年齢別では、60歳代が71.4%、50歳代、70歳代以上が65%前後と高年齢層が高くなり、30歳代と40歳代が50%あまり、18歳から30歳未満では15%と若い世代は市の説明会や懇談会に参加する率が低くなっている。

4 「協働のまちづくり」及び「地域コミュニティ」についておたずねします。

(12) あなたは、安曇野市が「協働」によるまちづくりを進めていることを知っていますか。

(集計表 P29～P31)

- ・市が協働のまちづくりを進めていることを「知っている」が 17%、「聞いたことはあるが内容はわからない」が 37%、また「聞いたことがない」が 46%で、半数以上がまったく知らない、8割以上が理解していないという結果であった。
- ・地域別に見ると、「知っている」では堀金地域が 23%と一番高く、次いで豊科地域が 18%、穂高地域が 17%、三郷地域と明科地域が 15%であった。「聞いたことはあるが内容はわからない」では、明科地域が 50%と最も高く、次いで豊科地域が 43%、他の地域は 30%台前半であった。「知らない」では明科地域が 35%と最も低く、次いで豊科地域の 39%、その他の地域は 50%前後となっている。
- ・年齢別に見ると、「知っている」では 50 歳代以上が 20%を超えていますが、18 歳から 40 歳代までは 5%前後となっている。「聞いたことはあるが内容はわからない」では、40 歳代、60 歳代、70 歳代以上で 40%を超え、50 歳代で 31.3%、18 歳から 30 歳代で 20%前後という結果であった。「知らない」では 18 歳から 30 歳代までが 7 割以上で、年齢が高まるほど割合が低くなり、70 歳代以上では 29.1%となっている。
- ・性別で見ると、「知っている」では男性が 22.1%、女性が 11.6%と開きがあり、「聞いたことはあるが内容はわからない」ではほぼ同数で 35%あまり、「知らない」では女性が 48.6%で男性が 40.7%と若干差があった。

(13) あなたは地域活動や協働による取組に参加したことがありますか。 (集計表 P31～P32)

- ・地域活動や協働による取組に参加したことが「ある」が 41%、「ない」が 59%という結果であった。
- ・地域別に見ると、「ある」では穂高地域 (45%)、三郷地域 (44%)、堀金地域 (42%) と 4 割以上が参加したことがあり、豊科地域、明科地域も 3 分の 1 の方が参加したことがあると答えている。
- ・年齢別に見ると、「ある」と答えた方が 50 歳代で 47.0%と一番高く、60 歳代が 43.1%、40 歳代が 33.6%と働き盛りの年齢が地域活動にも関わっている結果となった。なお、70 歳代以上も 32.3%と 3 分の 1 の方が参加している一方、30 歳代で 16.9%、18 歳から 30 歳未満で 7.0%と関わりが薄い結果となった。
- ・性別で見ると、「ある」と答えた方が男性で 41.0%、女性で 28.2%と、まだまだ地域活動などは男性が参加する傾向がある。

(14) あなたは「区」に加入していますか。

(集計表 P32～P33)

- ・「区へ加入している」方が 85%と高い数値となっている。
- ・地域別で見ると、「区へ加入している」では堀金地域が 90%、明科地域が 89%、豊科地域と三郷地域が 88%、穂高地域が 79%という結果となった。
- 区等交付金による区への加入率では 77.1%であり、今回のアンケートではそれ以上の結果となっている。しかし、「区をよく知らない」、「区への加入の仕方がわからない」などの意見もあり、今後の区に対する理解を高める必要がある。
- 「安曇野市が協働のまちづくりを進めていることを知っている」と答えた方のうちで区へ加入している方が 94%、「協働は聞いたことはあるが内容は知らない」と答えた方のうちで区へ加入している方が 88%、「協働を知らない」と答えた方のうちで区へ加入している方が 76%と、協働を理解している方が区へ加入している率が高い結果となった。
- 単純に協働の理解と区の加入の関連性を言えないが、数値的には協働を理解している方のほとんどが区へ加入していると見られる。

(15) (14) で「区へ加入していない」と答えた方に、その理由をおたずねします。 (集計表 P33)

- ・区へ入っていない理由として複数意見をいただいた結果、「勧誘されなかった」が 22%、「区費や区加入金が高い」が

13%、「人間関係がわずらわしい」が23%、「役員になれない（なりたくない）」が22%と分かれた。

- ・その他意見として、「施設入所のため」、「アパート、借家に住んでいるため」、「区をよく知らない」、「区への加入の仕方がわからない」、「病気のため」などがあつた。

5 「自治基本条例」についておたずねします。

(16) あなたは「自治基本条例」について知っていますか。

(集計表 P34～P35)

- ・自治基本条例を「知っている」と答えた方は11%であり、「聞いたことはあるが内容を知らない」が46%と57%の方が何らかの形で耳にしているという結果であつた。また「聞いたことがない」が43%であり、自治基本条例について詳しく知らない方が89%とほとんどの方がしっかり知らないという結果であつた。
 - ・地域別に見ると、「知っている」では明科地域が最も高く16%、次いで堀金地域の16%、豊科地域の12%、穂高地域の10%、三郷では8%でした。「聞いたことはあるが内容を知らない」では豊科地域が50%、堀金地域が48%、三郷地域が47%、穂高地域、明科地域がそれぞれ44%、42%という数字であつた。
 - ・年齢別に見ると、「知っている」と答えた方では50歳代以上の世代が10%台、40歳代以下は5%前後（30歳代は1.4%）と若年層は知っている方が少ない結果となつた。
 - ・性別で見ると、「知っている」と答えた方で男性が15.3%、女性が6.4%と、条例を知らない女性が非常に多い結果となつた。
- 「自治基本条例を知っているか」の結果は、「市が協働のまちづくりを進めているか」の問いの答えに近い割合になつた。

(17) 自治基本条例の制定に対してはどう思いますか。

(集計表 P35～P39)

- ・自治基本条例が「大いに必要と思う」と答えた方が12%、「ある程度必要と思う」が42%で必要と考える方が54%と過半数であつた。一方「必要と思わない」が1%、「あまり必要と思わない」が2%で3%の方が必要ないと考えている。しかし、「わからない」と答えた方が35%と、必要、不必要と判断できない、知らないから答えられない方も多くいた。
- ・地域別で見ると、「大いに必要と思う」では堀金地域が14%、豊科地域と穂高地域が12%、三郷地域と明科地域が11%とほぼ同じとなっている。「ある程度必要と思う」では明科地域で52%、豊科地域で46%、穂高地域と堀金地域が40%前後であり、三郷地域は33%と他地域に比べ低い数値であつた。このことから、必要と考える割合は明科地域が63%と一段と高く、次いで豊科地域の58%、穂高地域、堀金地域の53%、また三郷地域はやはり44%と低くなつている。
- ・年齢別で見ると、「大いに必要と思う」では70歳代以上で17.1%と年代が下がるとともに数値も低くなり、18歳から30歳未満で3.5%となっている。「ある程度必要と思う」では50歳代が43.3%と一番高く年齢が上がるとともに、また下がるとともに数値も低くなり、18歳から30歳未満では28.1%、70歳代以上では39.0%となっている。全体的に必要と考える方は、年齢が上がるとともに数値も上がり、18歳から30歳未満の31.6%から70歳代以上の56.2%まで徐々に高くなつている。「必要と思わない」と「あまり必要と思わない」を合わせた数値では50歳代の6.7%がもっとも高く、年齢が上がるとともに、また下がるとともに数値が低くなり、18歳から30歳未満では一人もないという結果であつた。
- ・性別で見ると、「大いに必要と思う」では男性が16.6%、女性が6.2%と10%以上の差があつた。「ある程度必要と思う」ではどちらも39%程度、「必要と思わない」がどちらも1%台、「あまり必要と思わない」がどちらも2%台とほぼ同じでした。

○自治基本条例をある程度知っている、あるいは聞いたことがある方のほとんどが条例は必要と考えている。

■「安曇野市が協働のまちづくりを進めていることを知っている」と答えた方のうちで自治基本条例が必要と考える方が78%、「協働は聞いたことはあるが内容は知らない」と答えた方のうちで自治基本条例が必要と考える方が64%、「協働を知らない」と答えた方のうちで自治基本条例が必要と考える方が36%と、協働を理解している方が自治基本条例を必要と考える率が高い結果となった。

■「区へ加入している」方のうち自治基本条例が必要と考える方が58%、「区へ加入していない」方のうち自治基本条例が必要と考える方が31%と、区へ加入している方が自治基本条例を必要と考える率が高い結果となった。

(18)自治基本条例を制定する場合、どのようなことを盛り込むべきと考えますか。(集計表 P39~P43)

・条例に盛り込む事項として「市民の役割、責務と権利」が最も多く316人で38.3%、次いで「情報公開や情報共有」が305人で37.0%、「市の役割、責務と権利」が275人で33.4%、「人権の尊重や個人情報保護」が236人28.6%、「議会の役割、責務と権利」が207人で25.1%、「住民投票」が181人で22.0%、「市民参加や協働」が147人で17.8%、「地域コミュニティへの加入」が139人で16.9%という結果となった。

・地域別で見ると、「市民の役割、責務と権利」が最も高いのが明科地域で41.0%、次いで豊科地域の40.8%、「議会の役割、責務と権利」では堀金地域が31.7%と最も高く、次いで豊科地域の26.5%、「市の役割、責務と権利」では堀金地域がもっとも高く38.1%、次いで豊科地域の36.7%、「情報公開や情報共有」ではやはり堀金地域がもっとも高く41.3%、次いでこれも豊科地域で38.4%、「市民参加や協働」では豊科地域がもっとも高い26.1%、次いで堀金地域の22.2%、「地域コミュニティへの加入」では豊科地域と明科地域が19.2%で最も高く、「人権の尊重や個人情報保護」では明科地域が33.3%と最も高く、次いで堀金地域が31.7%となっている。

地域毎で見ると、豊科地域、穂高地域、明科地域が「市民の役割、責務と権利」がもっとも高く、三郷地域と堀金地域は「情報公開や情報共有」がもっとも高かった。

・性別で見ると、どちらも「市民の役割、責務と権利」が最も高く、女性では「議会の役割、責務と権利」が男性の31.9%に比べかなり低く19.0%となっている。男性における割合と女性における割合を比較すると、「人権尊重や個人情報保護」では若干女性が男性を上回っているが、その他の項目はすべて男性が上回っている。特に、「市民の役割、責務と権利」では男性が42.7%で女性が34.6%、「市の役割、責務と権利」では男性が38.4%で女性が28.9%、また「住民投票」も男性が26.6%に対し女性が17.8%、と低い数値となっている。

(19) 市民の役割などで大切だと思うことは何ですか。

(集計表 P43~P45)

・最も高い数値となったのが「お互いに支え合い、助け合う社会の形成を図ること」で半数以上の440人(53.4%)の方が答えている。次ぐ項目はその半数あまりで「自らの発言と行動に責任を持つこと」が238人(28.9%)、「地域のコミュニティに加入すること」が233人(28.3%)、「市との協働によるまちづくりの推進を図ること」が224人(27.2%)、「市政に参加し、まちづくりの主役となること」が159人(19.3%)、「公共の福祉に関わること」が142人(17.2%)、「公益的な市民活動に取り組むこと」が107人(13.0%)となっている。

・年齢別で見ると、「市政に参加し、まちづくりの主役となること」では30歳代が最も高く31.0%、40歳代と50歳代が20%台、その他の世代が10%台となっている。「市との協働によるまちづくりの推進を図ること」ではほとんど差がなく22%から28%台であった。「地域のコミュニティに加入すること」では50歳代以上の世代が30%前後と高く、18歳から30歳未満が特に低く12.3%であった。「お互いに支え合い、助け合う社会の形成を図ること」ではほとんど差がなくどの世代も50%台であった。「公益的な市民活動に取り組むこと」では50歳代が20.1%と最も高く、また70歳代以上が7.2%と低く、その他の世代は10%台であった。「公共の福祉に関わること」では14%台から21%台であった。「自らの発言と行動に責任を持つこと」では40歳代が38.1%と最も高く、30%台が18歳か

ら30歳未満、60歳代で、その他の世代は20%台であった。

- ・地域別で見ると、「市政に参加し、まちづくりの主役となること」では豊科地域が最も高く24.9%、堀金地域が22.2%、その他の地域が10%台となっている。「市との協働によるまちづくりの推進を図ること」では、堀金地域が31.7%、その他の地域は豊科地域の28.6%と明科地域の23.1%の間であった。「地域のコミュニティに加入すること」では豊科地域がもっとも高く32.7%、その他の地域は26%から28%台であった。「お互いに支え合い、助け合う社会の形成を図ること」では明科地域が67.9%と一段と高く、次いで豊科地域の58.8%、その他の地域は40%後半であった。「公益的な市民活動に取り組むこと」では堀金地域の20.6%のほかは10%前半であった。「公共の福祉に関わること」では堀金地域が31.7%と一段と高く、明科地域の11.5%のほかは15%から17%台となっている。「自らの発言と行動に責任を持つこと」では明科地域の37.2%が高く、堀金地域と豊科地域が30%台前半、穂高地域と三郷地域が25%台であった。

(20) 議会の役割などで大切だと思うことは何ですか。

(集計表 P46~P48)

- ・もっとも高い項目が「市民の意見を反映させること」で、498人(60.4%)であった。次に「市民への積極的な情報を提供すること」で329人(39.9%)、「行政を監視し、チェックすること」が273人(33.1%)、「議会の透明性を図ること」が257人(31.2%)、「議会基本条例に基づきその使命を果たすこと」が250人(30.3%)、最も低かったのが「政策提言、条例立案をすること」で136人(16.5%)であった。
- ・年齢別で見ると、「議会基本条例に基づきその使命を果たすこと」では60歳代が34.0%、70歳代以上が32.3%で、もっとも低い30歳代で23.9%であった。「政策提言、条例立案をすること」では30歳代、50歳代、60歳代が20%前後で、その他の世代は10数%となっている。「市民への積極的な情報を提供すること」ではすべての世代で30%台から40%台前半となっています。「議会の透明性を図る」では30歳代が46.5%と高く、その他の世代では40歳代の35.4%から18歳から30歳未満の29.8%の間であった。「市民の意見を反映させること」ではすべての世代で高く、40歳代では69.0%、30歳代で66.2%、60歳代で62.9%、また18歳から30歳未満でも57.9%、70歳代以上では52.6%であった。「行政を監視し、チェックすること」では、40歳代の40.7%から70歳代以上の23.5%まで世代で開きがあった。
- ・地域別で見ると、「議会基本条例に基づきその使命を果たすこと」では明科地域が比較的高い34.6%、次いで豊科地域が33.1%、ほかの地域では28%台であった。「政策提言、条例立案をすること」では堀金地域の25.4%が高く、その他の地域は18%から13%台であった。「市民への積極的な情報を提供すること」では堀金地域が27.0%と一段と高く、その他の地域は14%台から18%台であった。「議会の透明性を図る」では豊科地域が36.3%と若干と高く、その他の地域は27%台から32%台であった。「市民の意見を反映させること」ではすべての地域で高く、特に明科地域では66.7%と高く、次いで穂高地域の61.1%、その他の地域も57%以上となっている。「行政を監視し、チェックすること」では、豊科地域が39.6%と高く、次いで堀金地域の38.1%、その他の地域は30%前後となっている。

(21) 行政の役割などで大切だと思うことは何ですか。

(集計表 P48~P51)

- ・「行政に関しわかりやすい説明をすること」が389人(47.2%)ともっとも高くなっており、次いで「情報公開に努めること」が338人(41.0%)、「住みやすいまちづくりを進めること」が328人(39.8%)、「公正、公平な行財政運営を図ること」が305人(37.0%)、「効率的かつ健全な行財政運営を図ること」が289人(35.1%)と3人に1人以上の割合で考えており、また「市民と協働を推進すること」が167人(20.3%)、「市政への市民参画を積極的に推進すること」が155人(18.8%)、「政策に関わる能力を向上させること」が最も低く151人(18.3%)であった。
- ・年齢別で見ると、「市政への市民参画を積極的に推進すること」では70歳代以上が最も高く22.3%、その他の世代では16%~17%とほぼ同じであった。「情報公開に努めること」では70歳代以上が34.3%と他の世代に比べ低く、そ

他の年齢層は41%台から47%台であった。「行政に関しわかりやすい説明をすること」では40歳代が54.9%、50歳代と60歳代がやはり50%台、30歳代が46.5%、最も若い世代と高齢の世代の18歳から30歳未満と70歳代以上が41~42%台であった。「市民と協働を推進すること」では40歳代が26.5%と最も高く、次いで60歳代が22.8%、70歳代以上が22.3%、その他の世代が15%台以下であった。「住みやすいまちづくりを進めること」では18歳から30歳未満が71.9%と一段と高く、次いで30歳代が45.1%、40歳代が42.5%、その他の世代が34%台から37%台となっている。「政策に関わる能力を向上させること」では30歳代から60歳代が20%前後で、18歳から30歳未満と70歳代以上がそれぞれ14.0%、12.0%であった。「効率的かつ健全な行財政運営を図ること」では40歳代が44.2%、60歳代が40.6%、30歳代が39.4%、50歳代が34.3%、70歳代以上が28.3%、また18歳から30歳未満は40歳代の約半数の22.8%であった。「公正、公平な行財政運営を図ること」では30歳代から60歳代が40%前後で、70歳代以上が32.7%、18歳から30歳未満が28.1%であった。

- ・地域別で見ると、「市政への市民参画を積極的に推進すること」では豊科地域が最も高く22.0%、穂高地域、堀金地域、明科地域が20%弱、三郷地域が若干低く14.1%であった。「情報公開に努めること」では豊科地域が46.1%、穂高地域が42.2%、明科地域が41.0%で、堀金地域は34.9%、三郷地域は最も低い32.9%であった。「行政に関しわかりやすい説明をすること」では堀金地域が57.1%、明科地域が56.4%と高く、豊科地域が48.2%、穂高地域が44.8%、三郷地域が42.3%という結果であった。「市民と協働を推進すること」では豊科地域がもっとも高く24.5%、その他の地域は20%未満であった。「住みやすいまちづくりを進めること」では豊科地域、三郷地域、堀金地域、明科地域が41%台から43%で、穂高地域が若干低く34.0%であった。「政策に関わる能力を向上させること」では地域差が出ており、堀金地域が25.4%、豊科地域が20.8%、穂高地域が18.8%、明科地域は若干低く15.4%、三郷地域は堀金地域の半数の12.1%であった。「効率的かつ健全な行財政運営を図ること」では穂高地域の37.5%から三郷地域の30.9%までほぼ同じであった。「公正、公平な行財政運営を図ること」では明科地域が42.3%、堀金地域(39.7%)から三郷地域(34.2%)まで30%台であった。